
中国信息（畜産）

2008年5月8日号

◎2008年第1四半期における中国の家きん肉市場情勢

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2008年第1四半期における中国の家きん肉市場情勢の分析結果について発表した。その概要は以下のとおりである。

※ この記事は、中国農業部の了解を得て、独立行政法人農畜産業振興機構が翻訳提供しているものです。内容の一部または全部を転載等する場合は、資料元が当機構によるものである旨を必ず明らかにして下さい。

2008年第1四半期の中国の家きん肉市場価格は全体に上昇傾向を呈し、2月中旬にピークに達した後に下落し、3月中旬になって再び上昇に転じた。国際市場における家きん肉価格もまた、騰勢を示した。中国の家きん肉産品輸入は大幅に増加し、貿易黒字は減少した。

1 家きん肉価格の推移とその原因

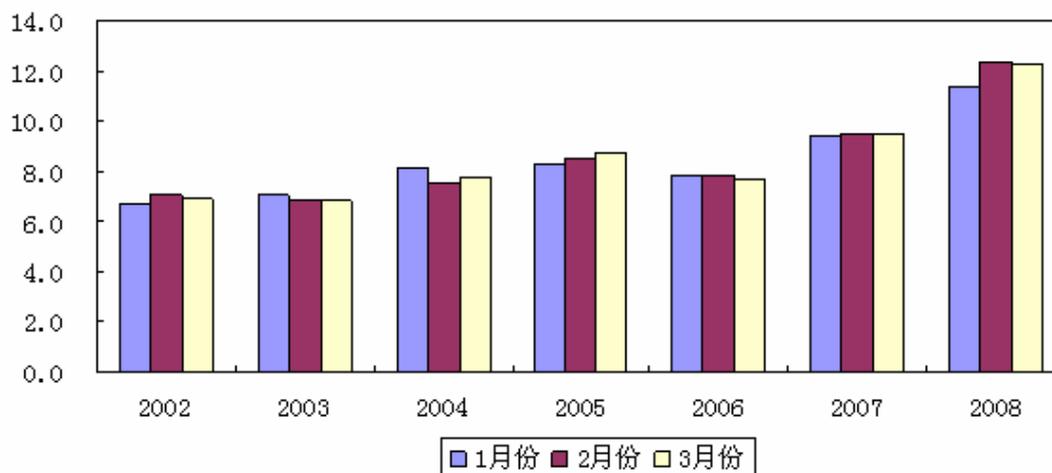
2008年第1四半期の中国の家きん肉価格は、全体として騰勢を維持した。2月中旬には史上最高を更新し、下旬に下落したものの、3月中旬には再び上昇に転じた。第1四半期の鶏丸どりの全国の平均卸売市場価格は、前年同期比26.78%高の1kg当たり12元となった。うち2月中旬の鶏丸どりの最高価格は同12.9元に達して史上最高を更新した後、2月中旬には同12.4元へと下落したものの、1月に比べ8.7%高であり、3月中旬には反発して、3月の平均価格は2月並みの同12.3元となった。価格変動の主要因については、以下の通りである。

(1) 春節の影響

2008年2月上・中旬に家きん肉価格が大幅に上昇したのは、春節（旧正月：2008年は2月7日）とその前後の休日を合わせた春節期間に鶏肉消費が増加したためで、この時期には輸送が極めて繁忙となり、輸送コストが増加することも価格上昇に追い打ちをかけている。

元/千克

2002-2008年1-3月我国批发市场白条鸡价格



資料：中国農業部全国卸売市場価格

注：白条鶏＝鶏丸どり

(2) 気象の影響

2008年1月に南方地区の広範囲が大雪となり、家きん肉生産に一定の損害が生じたこと、中原（中国中央地域：古代の中国において、その中心地とされていた黄河中・下流の地域）および華南などの交通がまひし、一部の市場で短期的ながら荷が不足したことなどから、2月中旬の家きん産品価格は短期的に上昇した。しかし、2月中・下旬以降、交通・輸送が緩み市場供給が満たされてきたこと、政府の各種調整政策が奏功したことなどから、家きん肉産品価格は2月下旬以降落ち着き、かつ下落した。

(3) 飼養コストの増加

鶏の飼料やヒナ価格などは2007年から上昇傾向にあり、2008年3月のブロイラー飼料価格は1kg当たり2.74元と史上最高を更新し、前年同月比23.42%高、前月比1.86%高となった。同じくブロイラーヒナ価格は1羽当たり3.19元で、前年同月比39.91%高、前月比12.72%高となった。

(4) 食品価格高騰の影響

2007年に豚肉価格が高騰したため、家きん肉は豚肉の重要な代替品として価格が上昇し、その上昇幅は牛肉および羊肉産品よりも大きかった。

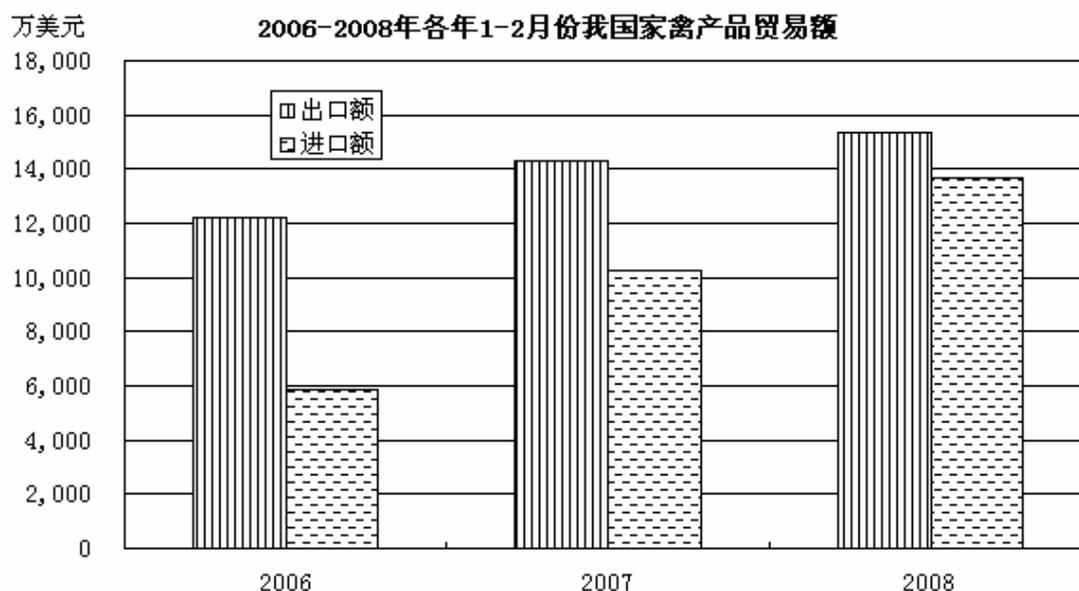
2 家きん産品の貿易黒字は減少

2008年1～2月の中国の家きん産品累計輸出額は、前年同期比7.14%増の1.53億ドルとなった。うち家きん肉およびモツが占める割合は29.43%、家きん加工品は65.67%、生き

た家きん（繁殖用を除く）は4.89%となった。

同じく輸入額は、同33.01%増の1.37億ドルとなった。うち家きん肉およびモツは98.15%、繁殖用家きんは1.82%となった。

家きん産品輸出が輸入を上回ったことから、貿易黒字は維持したものの、輸入額の増加幅が輸出額よりも大きかったことから、貿易黒字は前年同期比2.37億ドル減となった。



資料：中国海関統計

(1) 家きん肉およびモツは輸出入額とも増加

2008年1～2月の家きん肉およびモツ輸出量は前年同期比5.71%増の2.69万トン、輸出額は同25.75%増の4,515.6万ドルとなった。主要輸出相手国は香港、マレーシア、およびマカオ、主要輸出省は広東省、山東省、遼寧省、河南省および吉林省であった。

同じく輸入量は同10.51%減の10.81万トン、輸入額は同33.01%増の1.34億ドルとなった。主要輸入相手国は米国およびアルゼンチン、主要輸入省区市は広東省、上海市、江蘇省、安徽省および広西チワン族自治区であった。

(2) 家きん加工品輸出は減少

2008年1～2月の家きん加工品累計輸出量は同14.02%減の2.97万トン、輸出額は同1.62%減の1億ドルとなった。主要輸出相手国は日本、韓国および香港、主要輸出省市は山東省、遼寧省、北京市、広東省および黒龍江省であった。

(3) 生きた家きん輸出は増加、繁殖用家きん輸入も増加

2008年1～2月の生きた家きん（繁殖用を除く）輸出量は同8.55%増の3,042羽、輸

出額は同53.93%増の750.15万ドルとなった。輸出先はすべて香港およびマカオであり、香港向け輸出額は同67.90%増の546.13万ドルとなった。主要輸出省は広東省で、その輸出額は同54.16%増の711.90万ドルとなった。

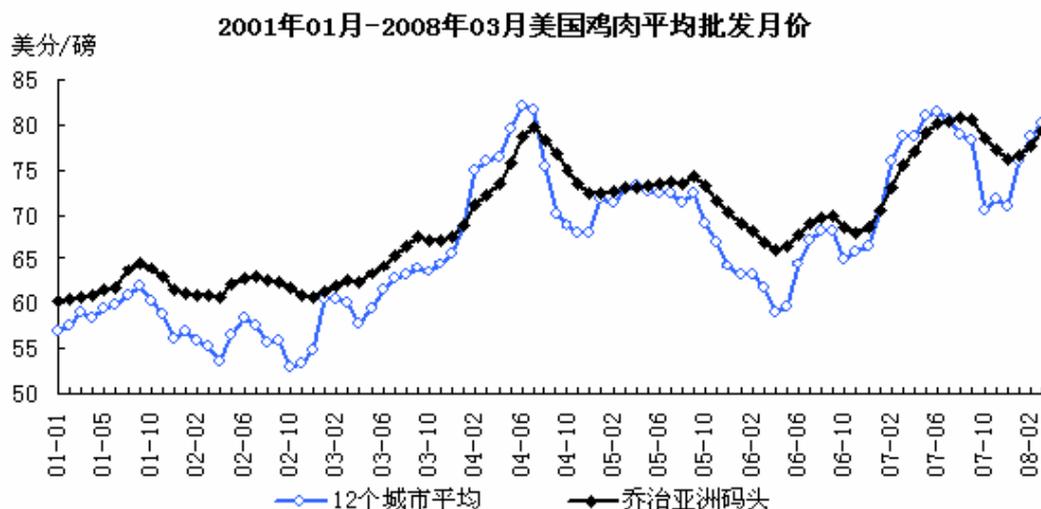
また、繁殖用家きんの輸入量は同69.24%増の16.84万羽、輸入額は同62.91%増の244.46万ドルとなった。主要輸入相手国は米国およびオランダであった。

3 国際市場情勢

(1) 国際市場における家きん肉価格

ア 第1四半期の米国の家きん肉価格は反騰

2008年第1四半期の米国12都市（ボストン、シカゴ、シンシナティー、クリーブランド、デンバー、デトロイト、ロサンゼルス、ニューヨーク、フィラデルフィア、ピッツバーグ、セントルイス、サンフランシスコ）の鶏肉平均卸売価格は1ポンド当たり78.27ドルで、前年同期比4.37%高、前期比10.04%高となった。ジョージア州の埠頭における鶏肉平均価格は同77.84ドルで、前年同期比6.51%高、前期比0.7%高となった。第2四半期の米国家きん肉産業は、上昇し続ける生産コストやエネルギー価格などの影響が第1四半期の比較的高い在庫水準に対する価格圧力となり、その価格は比較的高水準で推移し続ける可能性があると予測されている。



資料：米国農務省経済調査局（USDA/ERS）

注：批発＝卸売、城市＝都市、喬治亞州碼頭＝ジョージア州埠頭

イ ロシアの家きん肉価格は大幅な前年高、前月比では小幅高

2008年2月のロシアの家きん肉平均価格は1kg当たり72.88ルーブルで、前年同月

比18.70%高、前月比1.48%高となった。国際市場における食品価格高騰の影響から家きん肉価格も上昇を続けたものの、国内家きん肉輸入量および生産量とも増加を続けたことに加え、政府の食肉価格コントロールなどもあり、家きん肉価格は今後、安定的に推移するとみられている。

(2) 生産および貿易

と鳥羽数の増加および家きん1羽当たりの重量増加により、2008年第1四半期の米国の家きん肉生産量は前年同期比5.2%増の90.75億ポンドと見積もられている。現在の鶏飼養羽数は前年同期比3%増であることなどから、第2四半期の米国の家きん肉生産量は94.0億ポンド、2008年通年では371億ポンドの生産が可能であると予測されている。

国際市場における需要増加とドル安の影響を受け、2007年の米国の家きん肉貿易は史上最高を更新し、2008年第1四半期になっても、なおその勢いを維持している。2008年第1四半期の米国の鶏肉輸出量は前年同期比9.8%増の14.0億ポンドと見積もられ、主要輸出相手国はロシア、キューバおよびメキシコなどとされる。うちキューバ向け輸出は178%増、ロシア向けは71%増とされる。2008年の鶏肉輸出量は、60.0億ポンドに達すると予測されている。

また、2008年2月のブラジルの鶏肉輸出量は同62%増、フィリピンの日本向け輸出量は30%増となった。

途上国など世界的な経済成長に伴い、2008年の世界の家きん肉貿易量は増加するとみられ、うち輸入は1.9%増、輸出は10.7%増と予測されている。米国およびブラジルの輸出はその8割を占め、前年比4%増と見積もられている。